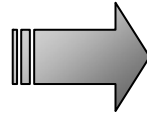


基本計画の改訂について

改訂理由

集中取組期間の終了



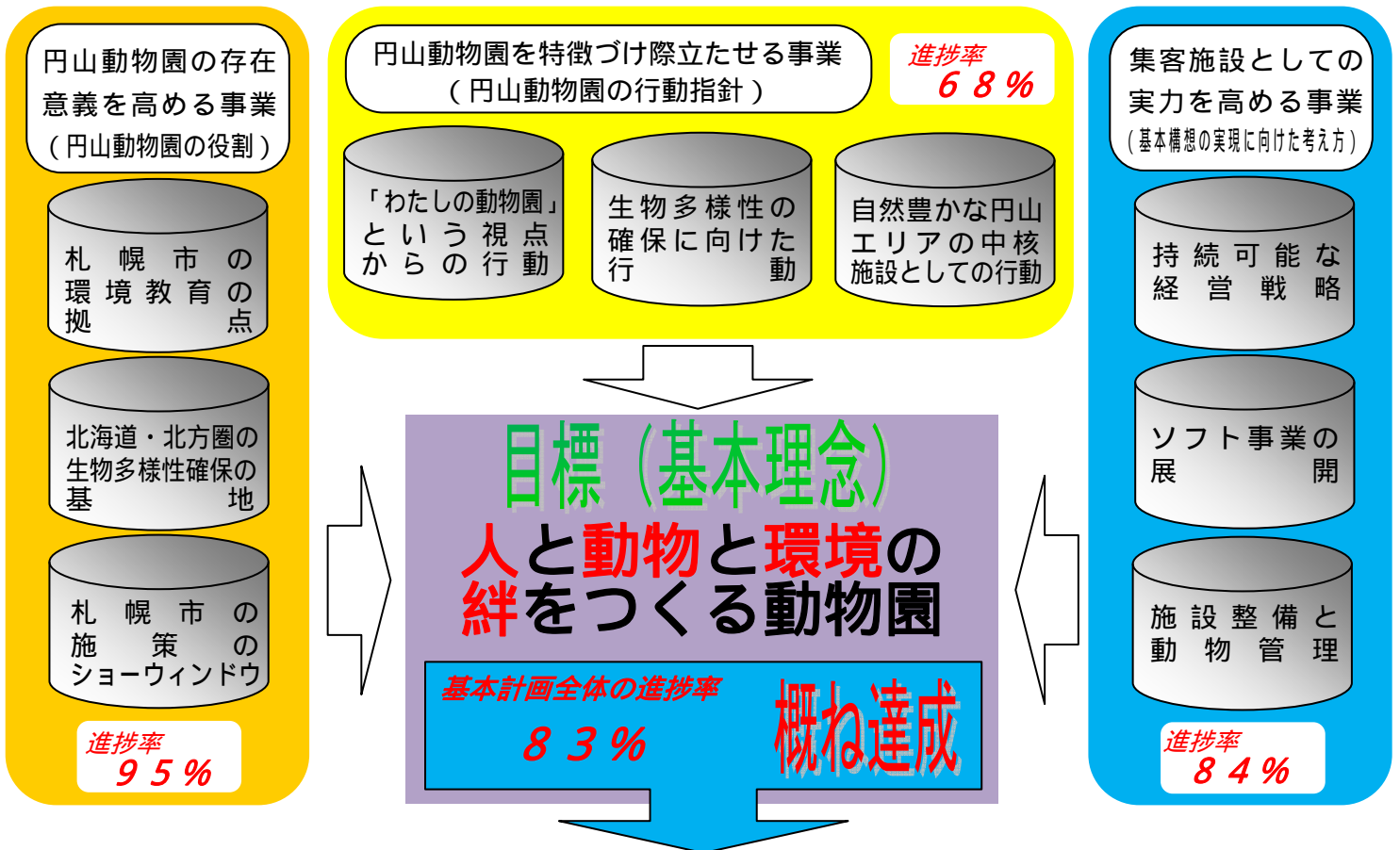
基本計画の改訂

基本計画が概ね 10 年計画であるため
大幅な修正を加えるものではない。

< 基本計画改訂イメージ図 >



基本計画の項目と進捗率



基本理念の実現に向けて「新たな挑戦を続ける」ための4つの方針

- ① 環境を守り伝える
- ② 市民とともに歩む
- ③ さっぽろの未来を創る
- ④ 未来に向けた施設整備

※ 今後は各事業の重点項目に成果指標を設けて進捗状況を管理

円山動物園の存在意義を高める事業(円山動物園の役割)

区分	進捗状況・課題等	改正案
環境教育の拠点	環境教育プログラムの策定完了 常に正確で最新の環境情報の提供 看板等の最新情報への定期的な更新 新エネルギーをわかりやすく解説できる工夫 効果的な環境教育の推進	環境教育プログラムの実施 専門的知識を有する大学等と連携 園内動物説明用看板等を半年に1回程度更新 次世代エネルギーパークの積極的な活用 【成果指標】 来園者の環境教育施策理解度 100%達成
生物多様性確保の基地 北海道・北方圏の	ホッキョクグマ、ユキヒョウ、レッサーパンダなどの絶滅危惧種の繁殖に成功 新たな血統導入のために国外動物園との動物交換 絶滅危惧種の繁殖成功率の向上 道内で保護した野生個体(猛禽類)の放鳥の実績づくり	国際種情報システム機構(ISIS)の活用 絶滅危惧種の複数ペア飼育による繁殖率の向上 【成果指標】 保護した猛禽類を毎年3羽以上放鳥
札幌市の施策の ショーウィンドウ	障がい者、子育て支援イベント等を実施 札幌市の冬の魅力を高めるためのイベント実施 ガイドボランティア、森のボランティアのレベルアップ 円山動物園オリジナルグッズの開発及び販売 各イベントが持つメッセージの来園者理解度向上	主要イベントでのアンケート実施 スノーフェスティバルの継続開催 ボランティアへの研修体制整備(おもてなし力の向上) 札幌のものづくり産業の振興・発信のため地元企業と連携 【成果指標】 実施したイベントの来園者の施策理解度 100%達成

円山動物園を特徴づけ際立たせる事業(円山動物園の行動指針)

区分	進捗状況・課題等	改正案
「わたしの動物園」という視点からの行動	アニマルファミリー制度導入 みんなのドキドキ体験の実施 市内各大学との共同研究の実施 多くの市民に動物園を支援してもらう寄附制度への改正 (現在のアニマルファミリー加入者:約1,000人)	アニマルファミリー制度の見直し みんなのドキドキ体験の定番メニューの拡充 市内各大学との更なる共同研究の実施 【成果指標】 平成28年度までに20,000人アニマルファミリー加入
生物多様性の確保に向けた行動	ビオトープ整備 外来植物による動物園の森の侵食 体験プログラムの定期的な実施	動物園の森の外来植物の駆除 ニホンザリガニの繁殖技術の確立 【成果指標】 環境教育や生物多様性の体験プログラムを毎年10本以上実施
中核施設としての行動 自然豊かな円山エリアの	円山エリア周遊イベントへの参加 円山エリア活性化のための行動 公共交通機関の利用推進	地下円山公園駅からのラッピングシャトルバス等の試験運行 地域商店街と連携した円山街歩きイベントの実施 【成果指標】 平成28年度までに地下鉄円山公園駅からの誘導サインのリニューアル実施

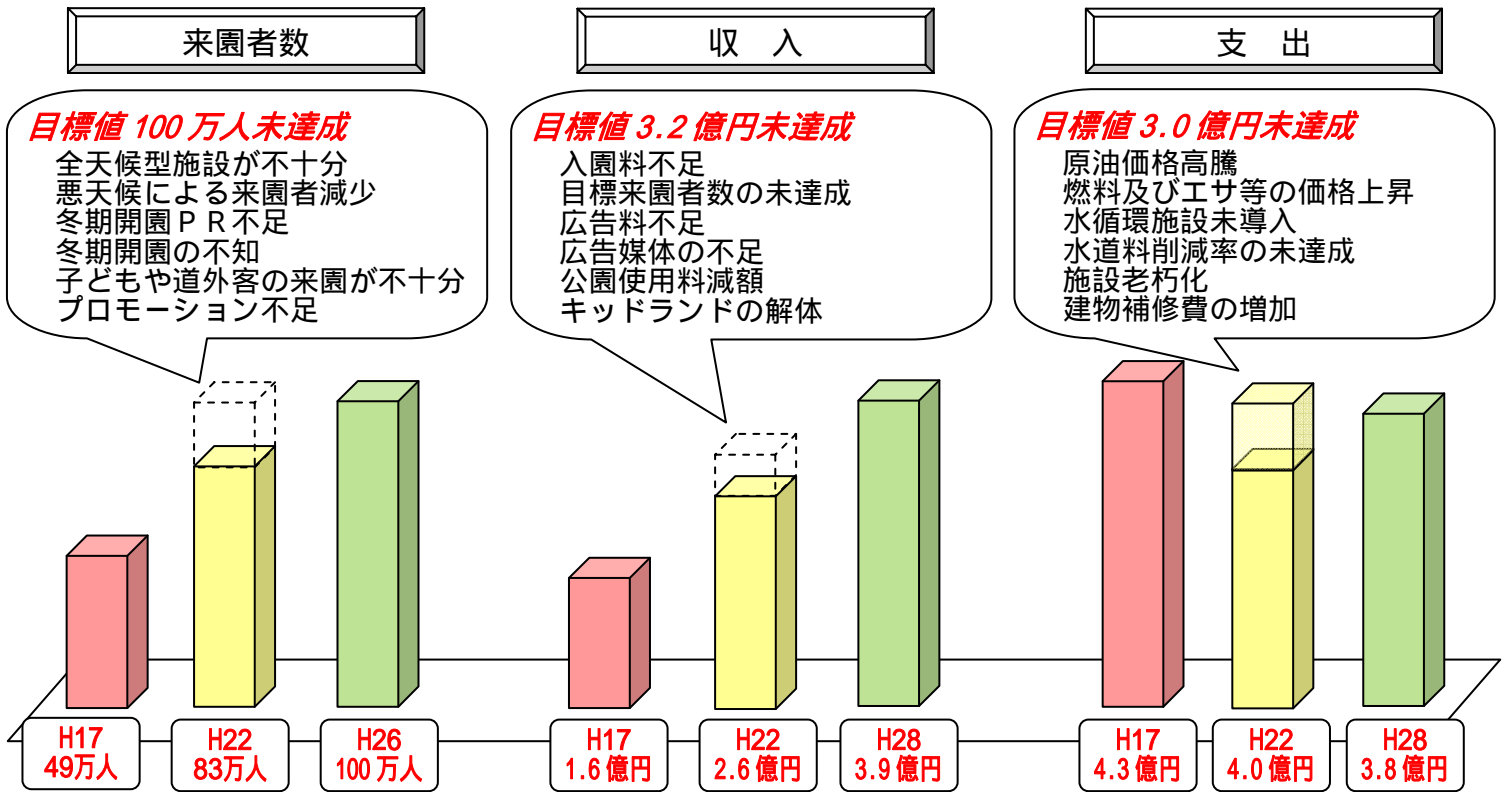
集客施設としての実力を高める事業(基本構想の実現に向けた考え方)

区分	進捗状況・課題等	改正案
持続可能な経営戦略	平成22年度実績(平成17年度比) ・来園者数83万人(70%増) ・収入2.6億円(64%増) ・支出4.0億円(7%減) 来園者数100万人に向けた集客の取組 ・全天候型施設の不足 ・道外や冬期のプロモーション機会の確保 収入の増加に向けた取組 ・広告料収入の拡大 ・アニマルファミリー制度加入者の拡大 支出削減に向けた取組 ・原油価格高騰による燃料価格やエサ代価格等の上昇 ・新規施設の建設に伴う光熱水費の増加	来園者数100万人に向けた集客の取組 ・老朽化した施設の改修や新たな施設の建設 ・市中心部や首都圏でのプロモーションを実施 収入の増加に向けた取組 ・来園者数増加による広告価値向上 ・寄附制度の見直しによる寄附金収入の拡大 支出削減に向けた取組 ・新エネルギーの導入による燃料費削減 ・節水効果の高い機器導入 ・エサ代の市場価格の徹底調査 【成果指標】 平成26年度までに来園者数100万人、平成28年度までに収支均衡
ソフト事業の展開	季節に応じたイベント実施 (春まつり、夜の動物園、命の感謝祭、スノーフェスティバル) 夏期の更なる来園者増に向けた取組 子ども向けイベントの不足 更なる冬の動物園PR ホームページの更なる充実 実施イベントの満足度向上	夜の動物園の実施日数増加 子ども向けイベント(ふれあい教室)の充実 北海道外に向け、冬の動物園をPR ホームページで動画を配信するなど新たなメディアを活用したプロモーション展開 【成果指標】 季節に合わせた各イベントの来園者の満足度100%達成
施設整備と動物管理	円山メソッドの導入 環境エンリッチメントの推進 ・エゾシカ・オオカミ舎、エゾヒグマ館、は虫類・両生類館建設 コンビニ・カフェ誘致 新エネルギー活用 動物のことを考えた施設整備 ・円山メソッドや環境エンリッチメントに配慮した施設 ・老朽化対策を実施した施設 来園者のことを考えた施設整備 ・エリア(ゾーン)ごとのテーマが明確な施設 ・全天候に対応できる施設 ・子どもがゆっくり楽しむことができる施設 ・カラス対策を施した施設 自然災害に対応し、動物の命を守る施設 ゾウの導入調査 来園者と動物が満足する施設建設や展示方法	アジアゾーン建設 アフリカゾーン建設 ホッキョクグマ・アザラシ館建設(着手) 世界の熊館改修 サル山改修 モンキーハウス改修 カンガルー館改修 遊具広場建設 多目的施設建設 自家発電装置の整備 ゾウ導入調査・方針決定 【成果指標】 新施設や展示内容等について、来園者の満足度100%達成

: 進捗状況 : 課題・問題点

経営戦略詳細(入園者数と収支)

決算数値と比較するため 22年度と比較



新たな目標値

26年度において100万人達成

- 複数の動物繁殖の成功
- 絶滅危惧種をはじめ、たくさんの繁殖を成功させる。
- 積極的なプロモーション
- 冬期開園のPRや観光客、修学旅行生などの誘客のため、市内中心部や道外で積極的に行う。
 - 子ども向けイベントの充実
 - 動物たちと直接ふれあうことができる体験イベントを充実する。
- 動物園の核となる全天候型施設の完成
- アジアゾーンの完成に合わせて、集中的に広報、イベント等を行う。
- 遊具広場の建設
- 見るだけではなく動物の生態を体感し、子どもが長時間遊べる遊具を建設する。

新たな目標値

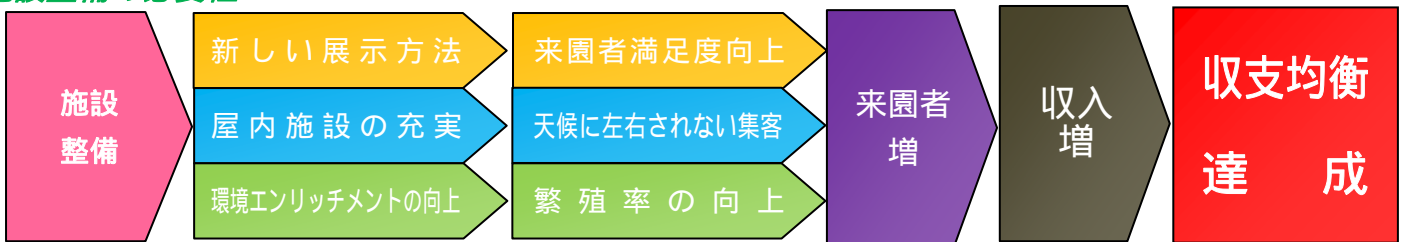
28年度において収支均衡を図る

- 収入 H22年度比50%増
- アジアゾーン、アフリカゾーンの完成に伴う、来園者数の増加による入園料収入、広告収入の拡大
 - 多くの市民に動物園を支援してもらう寄附制度への見直し
- 支出 H22年度比5%減
- 太陽光発電や木質バイオマスなどの新エネルギーの導入
 - エサ代の市場価格の徹底調査、省エネ対策徹底
 - 水循環装置や高圧洗浄機の導入

入園料及び駐車料金のあり方について

収支均衡の動向を注視し、入園料の検証を行う。来園者数が増えた時の影響等を考慮し、駐車料金のあり方について検証を行う。

施設整備の必要性



今後の施設整備計画

24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
アジアゾーン 遊具広場	世界の熊館 モンキーハウス カンガルー館	サル山	アフリカゾーン 駐車場エレベーター	多目的施設

動物園の核となる新規建物 新規建物 既存建物の改修